



今の平和な国や社会にも、戦争や武力紛争が起こる原因になるかもしれない場所や物事があります。私たちは戦争や紛争の土台を作るのか、平和の土台を作るのかを考えなければいけません。

「違う」人たちの意見や困難に気づく毎日の選択が、平和の土台を築きます。

みなさんは、将来、家庭人として、社会人として、国際問題について再び考える時があります。自分の国と別の国との問題、自分の国の中での対立に直面することもあるでしょう。その時に軍事行動や力によって争いをしずめることが解決への道と考えるのか、平和的な解決方法を模索するのか。ぜひ、平和を選択する人になってもらいたいです。そのためには、自分と考えの違う人と向き合い、相手の話をしっかりと聞くことがスタートになります。「自分と違う」ということに驚いて相手をシャットアウトしてしまうのではなく、「なぜ違うのか?」「どんな視点を持っているのか?」「妥当な言い分はあるか?」などと考えれば、相手との違いを超えて新しい共通の目的を持つための手がかりが見つかるかもしれません。

制作協力者 清水 康子(しみず やすこ) 関西学院大学 総合政策学部 教授

### 人権に関する相談窓口

- 子どもや子育て相談 TEL 06-6430-9989 (平日/9:00~17:30)  
※メール受付 [ama-ikushia@city.amagasaki.hyogo.jp](mailto:ama-ikushia@city.amagasaki.hyogo.jp)
- ひきこもりがちな青少年の相談 TEL 06-6423-8560 (平日/9:00~17:30)  
※メール受付 [ama-y-soudan@city.amagasaki.hyogo.jp](mailto:ama-y-soudan@city.amagasaki.hyogo.jp)
- ひょうごっ子悩み相談24時間ホットライン TEL 0120-0-78310
- みんなの人権110番(全国共通人権相談ダイヤル)  
TEL 0570-003-110 (平日/8:30~17:15)
- こどもの人権110番 TEL 0120-007-110 (平日/8:30~17:15)
- インターネット人権相談受付窓口 <https://www.jinken.go.jp/>
- LINEじんけん相談 右記の二次元コードから  
友達追加して、相談してください
- 尼崎市ダイバーシティ推進課(じんけん何でも相談隊) TEL 06-6489-6658  
※メール受付 [ama-jinkensoudan@city.amagasaki.hyogo.jp](mailto:ama-jinkensoudan@city.amagasaki.hyogo.jp)



発行 尼崎市教育委員会事務局 社会教育部 社会教育課 TEL 06-4950-0405

社会教育課では、幼稚園、小・中学校の保護者を中心とした自主学習グループによる人権学習をサポートしています。社会教育指導員を派遣し、希望するテーマでの講師選び等のお手伝いをします。人権に興味があり、学習してみたい方はお気軽にお問い合わせください。

発行日:令和8年1月

# 21世紀は平和の世紀?

～平和・人権と私たちの関係を考える～



## はじめに

2025年は、第二次世界大戦が終結してから80年となる年です。過去を知り、戦争の記憶を風化させず平和への願いを未来につなげていくことが大切ではないでしょうか。

第一次世界大戦、第二次世界大戦の悲惨な状況の反省から、戦争や紛争を防ぎ、世界の平和と安全を維持することを目的に国際連合が創設されました。その後、1948(昭和23年)年12月10日、国際連合第3回総会(パリ)において、「すべての人民とすべての国とが達成すべき共通の基準」として、「世界人権宣言」が採択されました。「世界人権宣言」は、基本的人権尊重の原則を定めたものであり、初めて人権の保障を国際的にうたったもので、人類の人権に対する考え方が高められました。

### 第一次世界大戦

1914(大正3年)年7月28日から1918(大正7年)年11月11日の4年3ヶ月続いた、人類最初の世界戦争で、ドイツ・オーストリアを中心とした同盟国とイギリス・フランス・ロシアを中心とした協商国との間でヨーロッパを戦場とし行われました。日本は協商国側に加わり世界的規模となりました。

### 第二次世界大戦

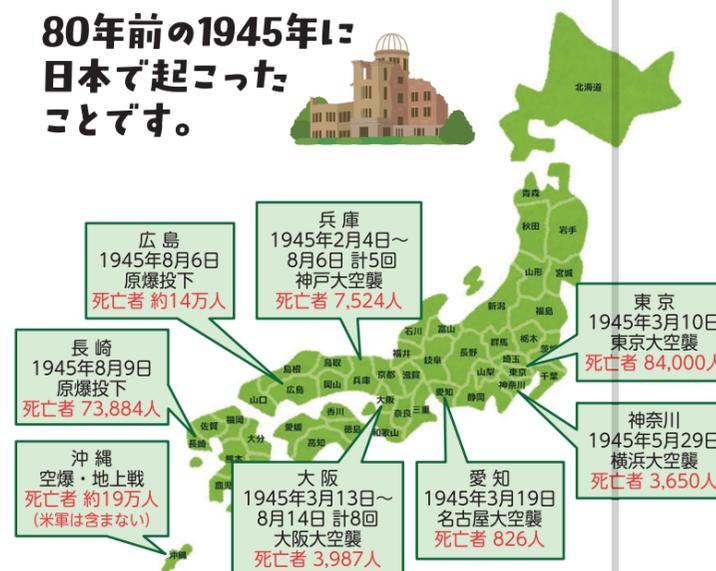
1939(昭和14年)年9月1日から1945(昭和20年)年8月15日の5年11ヶ月続いた、第一次世界大戦以来の世界大戦となり、人類史上最大の死傷者が出ました。ドイツ・イタリア・日本などの日独伊三国同盟を中心とした枢軸国と、イギリス・フランス・中華民国・アメリカ・ソビエト連邦などを中心とした連合国との間で戦われ、最終的に連合国陣営の勝利に終わりました。

### 国際連合

第二次世界大戦を防げなかった国際連盟の反省を踏まえ、国連(国際連合)は1945(昭和20年)年10月に51か国の加盟国で設立され、日本は1956年(昭和31年)12月18日、80番目の加盟国となりました。現在の加盟国数は193か国です。

## 2025年は、第二次世界大戦後80年という節目の年を迎えました。

### 80年前の1945年に日本で起こったことです。



尼崎市社会教育課作成

今、世界では、戦争や紛争によってたくさんの大人や子どもたちが命をなくし、傷を負ったりしています。「戦争」について考え、平和であり続けるために自分たちに何ができるかを考えてみましょう。

### 尼崎市にも戦争の爪痕が残っています

#### 旧開明小学校の塀に残る機銃掃射の跡

旧開明小学校の南西の塀に、米軍機による銃撃痕と伝えられる跡があります。1945(昭和20)年6月1日に飛来した、P51戦闘機の機銃掃射跡と考えられています。尼崎市内に現存する、数少ない戦跡として、また戦争の歴史と平和の尊さを学ぶために、説明板とともに保存措置を施して残されています。



尼崎市公益社団法人尼崎人権啓発協会発行  
「届け! 平和への願いより」 抜粋

## 戦争や紛争、迫害によって故郷を追われた人々について

戦争に巻き込まれた人々は、どのようなことに直面するでしょうか。  
「家や学校などの施設が破壊される」「親と子が離れ離れになる」「子どもが強制的に戦闘に参加させられる」「家族や友人と会えなくなる」という状況になります。  
そんな状況を逃れるために、他の国に避難する人たちが世界にはたくさんいます。  
このような戦争や紛争、迫害のおそれがあるために、他の国に避難する人たちのことを「難民」といいます。

「難民」と聞くと「ランチ難民」「引越し難民」という造語が世間で広まっていますが、これらの言葉が与える印象は「困っている人」程度の意味合いだと思います。しかし、「難民」と呼ばれている人々の現実とは非常にかけ離れています。

国外に逃れる人や出国できずに国内で避難する人たちは、望んで故郷を離れるのではなく避難をせざるを得ない状況に追い込まれているのです。

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の発表によると、このように国内外で避難を強いられた人の数が、2024年末で1億2,000万人を超えています。まさに、日本の人口に近い人数です。

## 難民の出身国は？



### 【国連難民高等弁務官事務所】

第二次世界大戦後、依然として避難を余儀なくされていた100万人以上の人々を援助するために1950年に設立された。UNHCRの第一の目的は、難民や庇護を求め人々、帰還者、無国籍者、強制された国内避難民の権利を保護、擁護するとともに、いかなる人も自己の意思に反して迫害を恐れる理由のある国へ送還されないようにすることである。

## では、迫害とはどのようなことでしょうか？

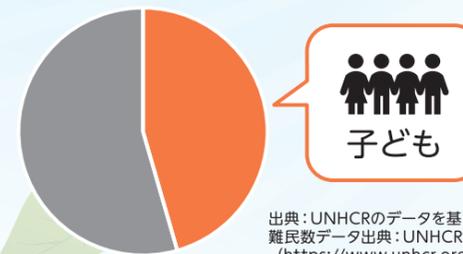
迫害とは、個人や集団が政治的なことや、宗教、人種、社会的な理由により、差別され、暴力や抑圧を受ける行為を言います。自由や安全安心が奪われる人権侵害です。

自分や友だちが、「無理やり働かされる」「理由もなく逮捕される」「住んでいる場所を選ぶことや移動する自由がない」「教育や医療サービスを受けられない」という状況を迫害といいます。

## 難民が避難している国は？



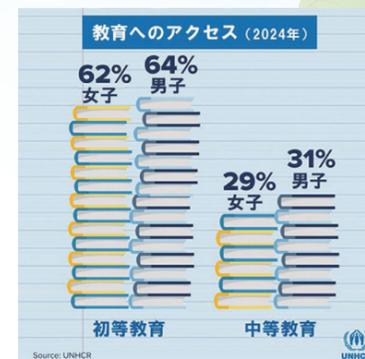
## 世界の難民の40%は子ども



1億2000万人を超える難民のうち5000万人以上が18歳未満の子どもです。彼らはかけがえない子ども時代を奪われ、過酷な避難生活を続けています。

また、世界の難民の子どもたちのうち、約半数は教育を受けることができません。「学校に行きたい」と切望しながら、それが叶わず、未来への希望を失っている子どもたちが多くいます。

## 難民の子どもたちの教育事情



出典：国連UNHCR協会

ある国で、小学生くらいの子と出会いました。自分たちの民族への迫害が激しくなり、耳の不自由なお父さんと二人で命からがら逃げてきたのです。私とお父さんのために手話通訳をしてくださいました。

また、別の親御さんからは、子どもが早く学校に行けるようにして欲しい。と懇願されました。どの国に行っても親御さんたちはみんな同じことを願っていました。

## もしあなたが難民になったとき、一番困るのはどんなことだと思いますか？

言語の壁？  
学校？  
住居？  
仕事？

## それに対して、どんな支援をしてほしいですか？ こんな質問に、あなたならどう答えるでしょうか。

難民になるという想像をしてみたこともなかった…という人が多いかもしれません。しかし、わたしたちは本当に難民になることはないと言い切れるでしょうか。難民の人々の状況は、私たちにあって遠い存在でしょうか。

世界の難民が増える原因を見た場合、少数者の権利を無視したり、力でおさえつけたり、他の国が自分の国の考えに従うべきだと考えていることが原因になっています。

## では、私たちはどうでしょうか？

出身地や育った環境が違う同級生や同僚を「少数者」として扱い、「自分たちに合わせて当然」と思うことはありませんか。一部の人たちの考え方や困難と感じていることを、「全員の思いには合わせられないから、多数にとって良い方法」を選択していませんか。多数派のそのような気持ちが、少数者の意見を取り入れない社会を作ってしまいます。それらが原因となり、大きな暴力や迫害を生む土台になってしまいます。

社会の中の一部のグループの人々が力でおさえつけられたり、不合理な扱いを受けたりしていると、その不満がさまざまなきっかけで暴力へとつながり、戦争や紛争へと発展してしまいます。争いの原因は人々の不満と言えるのではないのでしょうか。

## では、日本はどうでしょうか？

日本では近年大きな自然災害が起きています。戦争や内戦ではなく、自然災害で難民と似た状態になってしまふ可能性もあります。すでに震災などで避難生活を余儀なくされている方もいますが、さらに大規模な災害が起こってしまい、国外に助けを求めることになったとしたら…。「もし自分が難民になったら」という問いが現実味を帯びてきます。こうした感覚のギャップは、戦争に対する想像力の不足にも現れていると思います。平和をどうつづけていくかということを考えていかないといいませんね。



出典：UNHCR (unhcr.org)



出典：UNHCR (unhcr.org)